



「高島専務と二人で始めた頃は、今の事務所の数分の一程度の小さなオフィスだった(水野社長)」。地元の方々の「応援してくれる気持ち」に支えられて今日がある。

めざすは、「未来永劫、“県民球団”」。

秋田プロバスケットボールクラブ株式会社

代表取締役社長 水野 勇氣 氏

イースタン・カンファレンス優勝、ファイナル準優勝。観客動員数、bjリーグ全21チーム中、第2位の6万9千人強一。プロバスケットボールチーム「秋田ノーザンハピネッツ」は、4年目シーズンをこのような快挙で飾った。会社を設立してから6年、リーグに参入して4年。チームに対する県民の支持が、着実に広がっている。情熱、使命感、そして明確なビジョンに基づいた地道な活動が、多くの県民の心を動かしているのだ。



「4年目シーズンの快進撃は、1年1年の積み重ねの成果」と語る水野社長。

「永続してこそ」の存在価値

「3年以内に優勝を狙えるチームにしていく」—2年目シーズンを迎えたとき、水野勇氣社長はそう宣言していた。2013-2014シーズンは、まさしくそれを実現した形となった。強いチームをめざすのは球団運営において必須である。だが、水野社長は、優勝することだけを目的にしているわけではない。球団を立ち上げたそもそもの目的が「プロスポーツを通じて秋田の暮らしを元気で楽しいものにする」ことだからだ。「たとえば、大型補強をして優勝したとします。でも、お金を使いすぎたため会

社は破産、チームも解散…そんな事態になることが一番不幸なんです」と、水野社長。心から応援していたチームが無くなってしまふことほど空しいものはない。県民の誇り、希望、夢として、地元と存在し続けてはじめて意味を成す。「おらほ(“私たちの”、“秋田の”の意)のハピネッツ」と慕われ、支えてもらえる関係をつくると同時に、いかに収益バランスのとれた経営を行うかが重要になる。2011年、同社は「県民球団宣言」をし、秋田に永続する球団運営への決意を表明している。



スタッフはみな、バスケットボールと秋田に対する特別な思いがある。若くて元気な熱血集団だ。

「エンタテインメント」としてのスポーツ文化を発信

“おらほのハピネッツ”という思いをより多くの県民に抱いてもらうには、バスケットボールに接点のない人々にもその魅力を知ってもらう必要がある。同社では、「アリーナ・エンタテインメント」という考え方を理念の一つとして掲げている。それは、単なる“観戦”にとどまらず、試合会場での“非日常”空間をまるごとみんなで楽しもう、というコンセプトだ。マスコットキャラクターやチアダンサーによるパフォーマンス、お笑い芸人のライブとの抱き合わせ、大森山動物園とのタイアップなど多彩なイベントを企画し、バスケットファン以外の誘客にも工夫を凝らしている。

「プロスポーツ球団も本質的にはサービス業である、と捉えています。ディズニーランドと同じように、ホスピタリティあふれるサービスと感動を提供していきたい」と、水野社長は声を弾ませる。

「なれる」、「できる」!

水野社長は東京都出身。高校卒業後、スポーツマネジメントを学ぶために渡米したものの、家庭の事情で頓挫。その後、交換留

学制度があることに惹かれ国際教養大学に入学、秋田との縁の始まりとなった。ここで奇しくも留学先のオーストラリアで、一度は諦めたスポーツマネジメントを学ぶこととなる。さらに、プロスポーツを生活の一部として楽しんでいる現地の人々の姿が目につくにつれて、大好きな秋田への思いが募った。「秋田は、“バスケットボール王国”だ。きっと、県民に愛される球団になれる。今やらなければ一生後悔する」と考え、プロチームの設立を決意。収入も人脈も社会人経験もないゼロからのスタートだったが、心が折れそうになったことは一度もない。「できると思っていた」と水野社長。そしてこう続ける。「秋田には可能性がたくさんある。若い人たちがもっと起業して、新しいビジネスモデルをどんどん発信してほしい」と。水野社長のチャレンジと奮闘は、起業を夢見る若者たちの背中を押す“勇気”にもなりそう

だ。「なれる」、「できる」と信じる力が人の心を動かし、夢を現実にする。来シーズンは、ヘッドコーチも替わる新体制のもと、日本一をめざす秋田ノーザンハピネッツ。どんな進化を見せてくれるか、楽しみである。

東京・有明コロシアムでのプレーオフ・ファイナルでのシーン。チームカラーであるピンク色が観覧席を埋め尽くしている。東京での開催にも関わらず、これだけの秋田ブースター(ファン)が駆けつけた。「県民球団」として熱い支持を得ていることがわかる。



(c)AKITA NORTHERN HAPPINETS / bj-league



パートナー企業とのタイアップ商品企画や販促キャンペーン、広報活動、選手による学校訪問など、活動は多岐にわたる。

(c)AKITA NORTHERN HAPPINETS / bj-league



3ポイントシュートが得意な大塚選手。ブースターたちは、真剣なまなざしで声援を送る。

(c)AKITA NORTHERN HAPPINETS / bj-league



有明コロシアムで、ブースターと一緒に「秋田県民歌」を歌うマスコットキャラクターの「ピッキー」とチア。

秋田プロバスケットボールクラブ株式会社

〒010-0922
秋田県秋田市旭北栄町1-5
秋田県社会福祉会館 本館 4F
Tel. 018-865-0521
Fax. 018-865-0522
http://www.happinets.net/

- 創 業/2009年1月
- 資本金/8,000万円
- 社 員/11名
- 事業内容/プロスポーツチームの運営
プロスポーツ選手のマネジメント
スポーツイベントの企画・運営・主催など